



組合員との議論を通じて 第49回衆議院議員選挙で 安心して生活ができる選択をしよう！

日本の賃金はOECDの中で最下位グループで、アメリカの約半分。そして韓国よりも低く、ビックマック指数でも同様な傾向が示されています。「ビックマック指数」とは、イギリスのエコノミスト誌が公表しているデータで、各国のビックマックの価格を比較しているものです。日本のビックマックの価格は390円（3.55ドル）で、アメリカは5.65ドル、ユーロ圏は5.02ドル、イギリスは4.5ドル、韓国は4.0ドルとなっていて賃金格差と同じ傾向となっています。しかし、2010年のアベノミクスが始まるまでは、日本は3.91ドルで、アメリカは3.71ドル、イギリスは3.63ドル、韓国は3.03ドルで日本よりも値段は低かった現象と逆転しています。

年間平均賃金も2000年と2020年を比較すると、韓国は1.45倍と高くなっていて、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスは1.2倍です。ところが日本は1.02倍程度で、この20年間にビックマック指数同様に、実質賃金が上がっていないことがわかります。本来、マーケットが正常に機能していれば、日本製品は安いので輸出が増えて円高になるはずですが、技術革新を進めて生産性を上げて輸出と円高を支えることができないので、円安を求めて痛み止め程度の政策を行った結果、実質賃金が上がりませんでした。このように日本企業が目覚ましい技術革新もなしに、利益をあげて株価が上昇したのは、労働者を貧しくしたからです。



これがアベノミクスの本質です。このアベノミクスをつくった安倍・菅政権を引き継ぎ、新しい資本主義（成長と分配）と言っているのが岸田政権なのです。



更に、防衛費もGDPの1%以内とされてきましたが、2%以上も念頭に増額を目指すと言われていて、憲法が改正されたのは国民の意思とさせるために、改正国民投票法の成立が目指されています。ですから、私たちは『コロナ（安心して生活できるコロナ対策と収入の確保、厳しい経営状況）を乗り越える』『憲法改正を通じて目指されているものを議論して、子供たちの明るい未来のために改憲の流れに「NO！」突きつける』ことができる、働く側の代表を選択しなければなりません。

また、これまで推薦してきた議員の皆さんは、様々な委員会に所属をしていたり、JR総連に結集する仲間と推薦議員との意見交換で私たちの主張に共感してもらい、国政の中で現実を発信してもらっています。

私たちの生活に直結する問題を解決するのが政治であり、それを担う政治家を選ぶのが選挙です。私たちは①上記のような衆議院選挙焦点を組合員と議論して、②推薦議員の候補者を伝え、③組合員に必ず投票に行ってもらおう。そして④自分の時間で応援することなど、推薦候補者の当選に向けて目の前で出来ることを実践していきましょう。



自分の意思を投票によって示そう！